記者会見　資料１
2021 年 12 月 23 日

報道関係各位

多摩市
国立大学法人一橋大学

くらしに、いつも NEW を。　　*多摩市ニュースリリース*

＜東京都多摩市 市制施行 50 周年＞
多摩市新ビジョン「くらしに、いつも NEW を。」を実現させるため
国立大学法人一橋大学（鷲田祐一教授 研究チーム）と
多摩市未来シナリオの調査研究をスタート

「未来洞察（フォーサイト）」という研究手法を用い、
近未来である 10～20 年後の多摩市の都市像に関する調査研究をスタート

東京都多摩市は、2021 年 11 月 1 日に市制施行 50 周年を迎えました。これを機に、国立大学法人一橋大学データ・デザイン・プログラムと相互に連携・協力し、10～20 年後の近未来の多摩市の都市像について調査研究を実施していくことを目的とした協働連携の覚書を 2021 年 10 月 1 日に締結、調査研究がスタートしました。

現在の日本の都市部では、少子高齢化、人口動態変化、気候変動、自然災害、環境問題などさまざまな問題を抱えています。都心に隣接する郊外地である多摩市においても、これらの都市先進課題について戦略的に取り組むことが急務となっており、とりわけて AI・ICT・DX などのデジタル技術を活用した新たな領域に挑戦していかなければなりません。

そのような中で多摩市シティーセールス担当では、これからの自治体の「まちづくり」も、これまでの「課題対応型」に加えて、目指す「未来の多摩市」の都市像を描き、そこからバックキャストすることで、市の施策や事業に生かしていく「ビジョン型」の検討が必要と考えました。
そこで目指すべき普遍的価値観を定めたのがブランドビジョン**「くらしに、いつも NEW を。」**です。

多摩市では、この新しいビジョンを具現化するため**、「未来洞察（フォーサイト）」**という研究手法において先端事案を手掛ける第一人者である国立大学法人一橋大学（商学部・大学院経営管理研究科 鷲田祐一教授　研究チーム）と本年 10 月 1 日に締結した「多摩市未来洞察（未来シナリオつくり）調査研究に関する覚書」に基づき調査研究をスタートする運びとなりました。

この度の調査研究を機に、未来の兆しと市の将来計画を重ね、目指す「多摩市未来シナリオ」に沿った施策の考案をスタートし、より良い市政の実現を目指していきます。

今後の展開として、来年 3 月を目途に研究成果をビジュアル映像等で作成、デザイン化・視覚化し誰もが分かりやすい「未来の多摩市」を発表する予定です。

■「未来洞察（フォーサイト）」とは

技術開発、企業経営、行政施策などに関して、10～20 年先の近未来で起こりえる「多様な未来シナリオ」を構築し、戦略的に意思決定を行っていくためのワークショップ活動です。1960 年代に米スタンフォード大学が開発し、欧米各国の他、日本においても産官学の各分野で利用されています。
多摩市では予測困難な未来にむけ、「社会変化仮説」×「市の特徴・未来課題」の掛け合わせにより「多摩市の未来変化シナリオ」をつくりユニークな施策・政策を考案、市政の時代対応力を備えていくことを目的としています。

＜本件に関する報道機関からのお問い合わせ先＞
多摩市役所　秘書広報課
TEL：042－338－6812（直通）

＜参考資料＞

■多摩市ブランドビジョン「くらしに、いつも NEW を。」について

＊このイラストは、1987 年に、アメリカのストリート・アーティストのキース・ヘリング氏が多摩市に訪れ、子どもたちと描いた「ぼくの街」という作品です。（公益財団法人多摩市文化振興財団 所蔵）

1.背景

日本の都市は、今、さまざまな問題を抱えている。少子高齢化、人口動態変化、気候変動、自然災害、環境問題など。また、新型コロナの出現によって、人が集積する都市の問題は大きく露呈されることになった。人の分散、生活環境の向上、テレワークやデジタル化への早期対応など。都心に隣接する郊外地である多摩市においても、これらの都市先進課題について取り組むことが急務となっている。

2.多摩市のブランディングの必要性

多摩市は、ニュータウン創生期より、日本の未来課題に挑戦してきた「フロンティアスピリット」のまち。その開拓者精神は、今では、都心への交通網整備、団地の大型再生、リアルとオンラインによる市民活動など、さまざまな拡がりを見せている。そのすべてが、市民のくらしを快適にするためのもの。そして今、多摩市が、市民にとっても、今後流入してくる人々にとっても、魅力的な都市であり続けるためには、都市のブランディングが必要となる。ブランドビジョン、そしてビジョンに基づいた未来への取り組みやファクトの実現によって。混迷する時代に、今こそもう一度、フロンティアスピリットを呼び起こし、行動することで未来の多摩市を創っていく。

3.「くらしに、いつも NEW を。」に込めた思い

50 周年を機に、さらに「フロンティアスピリット」を強く発揮し、すべての人が持続可能に暮らせる未来の都市づくりを進めていくという思いを込めて、ブランドビジョンを開発した。これは、具体的に、４つの「NEW」から成っている。

NEW①： 都市のさまざまな課題を新しいアイデアや、DX や IoT などの最先端テクノロジーによって解決すること。

NEW②： 市民ひとりひとりにとって最適なくらし方、生き方が実現できること。誰ひとり取り残すことのない優しい都市になること。

NEW③：ニューノーマルの時代に向けて、くらしやすさをさらに強化すること。環境の整備などによって、「職」と「住」を兼ね備えた都市になること。

NEW④： 温故知新の都市であること。50 年の間に培った街の財産を活かしながら、未来へと進化を続けること。

多摩市は、これから、こうした NEW の考え方に則して、市民、民間企業、大学などとの協働、連携によって、持続可能な都市づくりに向けて、課題解決に挑戦していく。

■一橋大学（データ・デザイン・プログラム）について

技術とビジネスを“情報（データ）”と“デザイン”で連結できる新しいタイプの経営者（デザイン経営者）を育成し、“イノベーション人材”を輩出することを目指して 2020 年から開始されたプログラム。コンピュータ・サイエンスとデザイン思考を融合したカリキュラムを構成する点に独自性を持っています。２年生 31 名が第１期生として活躍しはじめています。